

## 寒苦鳥（かんくちょう）

1年間の最後の月、3月になりました。3学期はあっという間だったように思います。3月19日には卒業式、3月24日には修了式があります。6年生は後10日ほどで卒業です。今年度最後になる3月の全校朝会ではインドに伝わる昔話をしました。

昔々、雪がたくさん降り積もるインドの山奥に、寒苦鳥（かんくちょう 寒さが苦手な鳥と漢字では書きます）という鳥が住んでいました。この鳥は、ものすごく怠けものの鳥でした。なんと、自分の巣を作らないのです。昼間は太陽が出てとても暖かくなります。だから、寒苦鳥は歌を歌ったり、遊び回ったりして1日中遊んでいました。

夜になると、他の鳥たちは自分の巣に帰りますが、自分の巣がない寒苦鳥には帰る家がありません。雪山ですから、夜はものすごく寒くなり雪も降ります。凍った木の枝で寒さにブルブルと震えながら、寒苦鳥は「あー寒い。明日こそは、怠けしないで絶対に巣を作ろう！」と涙を流しながら決心しました。ところが次の日になると、太陽が出て暖かくなり他の鳥たちが歌い始めます。寒苦鳥は前の日のことをすっかり忘れて、「巣なんていつでも作れるさ。今日は何をして遊ぼうかなあ。楽しいなあ、楽しいなあ」と言いながら、いつもと同じように遊び回りました。そして、夜になるとまた「明日こそは、巣を作ろう！」と決心します。しかし、その次の日になると、また巣を作ることを忘れてしまうのでした。こんな風に、毎日毎日同じことを繰り返して、寒苦鳥はついに巣を作ることなく、むなしく一生を終えてしまいました。

「明日はやろう、明日は必ずやろう」といつも思い、反省するのですが、行動に移せない鳥、それが寒苦鳥です。

ここまで聞いて、「あれ？これって自分に似ているなあ。」と思った人はいませんか。どんな人の心にも「寒苦鳥のような怠ける心」はあります。しかし、その怠けたい心に打ち勝って、やることをしっかりとやっていかななくては成長がありません。

みなさんは4月には学年が1つ上がり新しい学年になります。新しい学年では、みなさんは寒苦鳥のようににはならないでほしいと思います。やらなければならないことを明日に延ばすのではなく、怠けたい気持ちに打ち勝つ強い気持ちを持ち、新しい学年を迎えてください。



### 【保護者アンケートに答えて】

- ・下校時に帽子をかぶらない、通学路を帰らない児童がいる。  
→全校朝会の時に生徒指導の担当の先生が全体指導を行いました。各教室でも指導します。
- ・あいさつする児童が少ない。  
→学校としても課題だととらえ、学校全体であいさつ運動を行っています。学校と家庭や地域が一体となって取り組む活動を考えています。
- ・地域の方の生の声を聞かせる学習機会を増やしてほしい。  
→地域に学ぶ学習は大切です。今後のコロナの状況を見ながら様々な活動を行います。